

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 581 事業名 脱色設備運転管理事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	下水道事業特別会計		
	款	下水道事業費		
	項	下水道管理費		
	目	脱色施設管理費		
	大事業	脱色設備管理事業		
	事項	脱色施設運転管理事業		

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	4	自然環境・資源循環型社会の形成
施策	1	生活環境の保全
取組	2	水環境・土壌環境の保全

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	永年 ~		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	終末処理場管理課	吉田 孝 (444-2463)	
関連課	(和歌川終末処理場)		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず	○
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実			
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実			
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実			
その他		その他		その他			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	放流先である和歌川の水質汚染を防ぐため	排水の色等規制条例に基づき、和歌川終末処理場内にある脱色施設（凝集沈殿設備、砂ろ過設備及びオゾン処理設備）の運転及び維持管理 通常は、凝集沈殿及び砂ろ過で脱色しているが、排水基準に達しない時には、オゾン処理設備を運転し、基準を遵守している。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		色条例における排水基準の遵守 脱色施設の運転管理事業を含む維持管理	色条例における排水基準の遵守 脱色施設の運転管理事業を含む維持管理	色条例における排水基準の遵守 脱色施設の運転管理事業を含む維持管理	色条例における排水基準の遵守 脱色施設の運転管理事業を含む維持管理	色条例における排水基準の遵守 脱色施設の運転管理事業を含む維持管理

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	268,582	246,255	258,680	233,661	245,891	230,482	258,097		258,097		
	伸び率 (%)	-	-	-3.7%		-4.9%		5.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員	7,944	7,529	7,944	6,568	4,393	4,455	4,393		4,393	
		非常勤職員					303	494	303		303	
		小計	7,944	7,529	7,944	6,568	4,696	4,946	4,696		4,696	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他												
一般財源 (税等)	268,582	246,255	258,680	233,661	245,891	230,482	258,097		258,097			
所要人数	常勤職員	1	0.98	1	0.87	0.58	0.59					
	非常勤職員					0.12	0.1					

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	着色度測定回数2.4回/年（簡易測定は1回/日 水質管理、脱色施設運転管理に用いる）				年度目標値	24	24	24	24	24
					実績値	24	24	24		
	単位	回	全体目標値	24	全体目標達成度	100.0%	100.0%	100.0%		
					年度別達成度					
成果指標	色条例の基準値の遵守				年度目標値	100	100	100	100	100
					実績値	100	100	100		
	単位	%	全体目標値	100	全体目標達成度	100.0%	100.0%	100.0%		
					年度別達成度					
					年度別達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	<p>排水の色等規制条例を遵守することにより、放流先である和歌川の水質汚染を防ぐことができている。施設の老朽による修繕等の維持管理費用が増加していくであろうが、和歌川の水質汚染防止と法令遵守のため今後も事業を進めていかねばならない。</p>
<p>「見直し」 「改善」案</p> <p>※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ</p>	